

英検合格を目指して！まちなか鳳雛塾の英検対策授業

1/17(金)、能登高校で英検が実施されました。生徒たちは塾に来て英検の参考書や問題集に励んでいます。まちなか鳳雛塾では、試験の約1週間前から英検3級、準2級、2級の対策授業を行いました。英検は、進学や就職において有利になるだけでなく、生徒たちが英語を実践的に学ぶための目標として重要視されています。今回の授業では、主にリスニングとライティングに重点を置き、生徒たちが効率的に実力を伸ばせるようサポートしました。

近年の入試では事前に取得した英検のスコアが得点に換算されるなど、非常に重要な存在になっています。他地域では英検受験に対して補助金を出す動きも見られ、受験生にとって検定取得の位置付けは大きく変わってきています。まちなか鳳雛塾でも英検対策に力を入れ、塾生の進路実現に有利な状況を積極的に作っていきます。

お家でできる！リスニング対策

英検のリスニング問題に慣れるには、授業の時間だけでなく、日々の生活の中で英語に触れる機会を増やすことが大切です。まちなか鳳雛塾でも、塾生に「家でもできるリスニング勉強法」を紹介し、日々の学習習慣に取り入れることを奨めています。英語のリスニングは、毎日少しずつ継続することが大切です。まちなか鳳雛塾では、英検対策だけでなく、日常の学習習慣も大切にしながら、生徒たちが英語に自信を持てるようサポートしていきます！

1. 洋楽を聞いて発音やリズムに慣れる

英語の歌を聞くことは、自然な発音やリズムを身につけるのに役立ちます。最初はゆっくりとした曲や歌詞がはっきり聞こえる曲を選び、歌詞を見ながら聞いたり、一緒に口ずさんだりしてみましょう。

2. YouTubeでネイティブの英語に触れる

YouTubeには、英語学習に役立つ動画がたくさんあります。英語のニュース番組、アニメの英語版、英会話レッスンの動画など、自分が興味を持てるコンテンツを探してみましょう。最初は字幕付きで視聴し、慣れてきたら字幕なしで挑戦するのも効果的です。

3. シャドーイングで発音と聞き取りを強化

シャドーイングとは、聞こえてきた英語をすぐにマネして発音する練習法です。英検の過去問のリスニング音声や、英語のスピーチ動画を使って試してみましょう。これを続けると、英語の音の流れやイントネーションが自然と身につく、リスニング力が向上します。



▲英検対策授業

お知らせ

今月のまちなかのおとは1-2月合併号です。また、来月以降の配信日を各月1日に変更します。

次年度の中学生クラス閉鎖に伴い、まちなか鳳雛塾は石川県総合模試の受験会場ではなくなります。今後の受験情報については石川県総合模試の公式HPをご確認ください。

能登高校「総合的な探究の時間」へのサポート

能登高校魅力化プロジェクトでは、能登高校の正課である「総合的な探究の時間（総探）」を積極的にサポートしています。総探では、生徒たちが地域社会の課題をテーマにした問題解決型学習に取り組んでいます。魅力化スタッフも伴走者として各チームに参加し、毎週各チームの探究活動を支えています。

今回の記事では、魅力化スタッフがサポートした活動の中から、ごく一部ではありますが活動の進捗をご紹介します。

地域とのつながりを築く：「能登高生と仲良くならん会」

1月11日（土）「能登高生と仲良くならん会」が能登高校で開催されました。このイベントでは、高校生15名と地域の社会人15名が参加し、地域と高校生がどのようにつながり、共に地域を盛り上げていくかをテーマに意見を交換しました。

企画・運営したのは「高校と地域をつながりや交流」に課題意識を持っているチームです。今回の企画では「どうすれば高校生と地域がつながれるのか」「どんなイベントを企画実施したらよいか」を地域の大人と高校生たちが話し合いました。企画したチームの課題意識や事前に調査したアンケート結果の発表があり、それを踏まえて参加者は活発に意見を出し合いました。

初対面の大人と高校生もいる中、参加者たちが自然に対話できるような環境作りも手が込んでいました。高校生たちは事前に「自己紹介の中でバレずに嘘をつけるか」というミニゲームや「じゃんけんで勝つとお菓子がもらえる」などの仕掛けで、アイスブレイクを準備していました。その後の意見交換もグループ分けや、メンバー交代などスムーズに多くの人と交流できる工夫が凝らされていました。

企画した高校生の工夫の甲斐もあって、参加者からは「普段話す機会のない人たちと関わることができて楽しかった」などの感想が寄せられました。

地域の仕事を知る：仕事図鑑作成と「ノトノカ」へのインタビュー

「地域の仕事作り」を解決しようと考えているチームもあります。高校生が地域で活躍する方々取材し、その仕事の内容や魅力を紹介する「仕事図鑑」という冊子を作成しています。その一環として、能登町で里山資源を活用した活動を行う「ノトノカ」の佐野さんをインタビューしました。

「ノトノカ」は、森林資源を有効活用した製品開発を通じて、里山の未来を守る取り組みを行っています。高校生たちは、精油（エッセンシャルオイル）の製造工程や森林保全活動の具体的な内容について学びました。また、里山を持続的に活用するための課題や解決策について考える時間も設けられ、自らの将来と地域との関わりについて深く考える機会となりました。

この取材活動を通じて、高校生たちは地域資源の可能性を知り、「地域の財産を守りつつ、新たな価値を生み出す」という視点を学ぶことができました。佐野さんのほかにも取材を重ねた仕事図鑑は2月中旬の完成を予定しており、地域で働く魅力的な仕事を知るきっかけとなることを目指しています。



▲能登高生と仲良くならん会



▲ノトノカの佐野さんへのインタビュー